

平成 13 年度の病害虫発生と防除

農林水産省生産局植物防疫課

I 夏期間の気象経過の概要と水稻の作柄

1 天候経過

冬期間（平成 12 年 12 月～2 月）は、北日本を中心に冬型の気圧配置が現れ、北海道や東北北部では寒気が入りやすく、寒気にすっぽり覆われ気温の低い状況が続いた。一方、西日本や南西諸島では、南の高気圧の勢力が強かったことから、冬型の気圧配置が続かず、気温の高い日が多く暖冬傾向であった。

春期間（3 月～5 月）は、3 月に、上旬の寒気、中旬に暖気、下旬には寒気と、寒暖が交互に現れ気温変動が大きかったが、4 月以降、高気圧に覆われることが多く、南西諸島と北海道の一部で平均気温が平年を下回った他は、全国的に平年を上回った。また、降水量が全国的に平年を下回り、一部の地域では農作物等への影響が見られた。

梅雨入りは、5 月 6 日頃に平年並みに梅雨入りした沖縄・奄美を皮切りに、10 日～2 週間早く 5 月 21 日頃に九州・四国地方が梅雨入りし、6 月 6 日頃には中国地方から東北地方まで一気に梅雨入りし、北陸・東北では 5 日前後早くなった。

梅雨時期は、6 月中旬頃に梅雨前線の活動が活発となり、広い範囲でまとまった降水があった。7 月以降は、西日本の各地で 7 月上旬から中旬にかけて前線の影響を受けた以外は、前線が日本海側から東北北部・北海道付近に停滞する日が多く、前線の活動は不活発となり、近畿地方での降水量は平年の 60% 程度となった。梅雨明けは、沖縄・奄美が平年より早く 6 月下旬に、九州北部及び西日本ではほぼ平年並みの 7 月 19 日頃となった。東日本では平年より 20 日ほど早い 7 月 1 日～2 日頃に梅雨明けした。東北では、太平洋高気圧の勢力が 7 月上旬頃は弱かったが、中旬からは太平洋高気圧の勢力が強まり、梅雨前線を北へ押し上げたため、ほぼ平年並みに明けた。

夏期間（6 月～8 月）は、太平洋高気圧の勢力が強くなり、北日本を除く広い地域で高温で、晴れの日が多く、西日

本から東日本にかけて少雨状況、南西諸島では 8 月中旬まで高温傾向が続いた。一方、北日本では、7 月下旬からオホーツク海高気圧が発達し、曇天が続く低温となるなど 8 月中旬まで気温の変動が激しく、北海道・東北北部では低温に関する注意報が発令された。

9 月に入ると、移動性高気圧に覆われた北日本では晴れの日が多く、前線が停滞した東・西日本では曇りや雨の日が続く、九州、四国では大雨となった。中旬には前線が北上し北日本では曇りや雨の日が多くなった。なお、台風 15 号の日本列島への接近により東・西日本では降雨が続く、11～12 日には関東地方に上陸・北上し、東・北日本を中心に暴風雨となった。これにより、一部の地域では、野菜、水稻、豆類に、浸・冠水が見られ腐敗等の農業被害が生じた。

2 水稻の作柄

10 月 15 日現在、本年産の水稻の作付面積は約 170 万 ha で、前年に比べ 6 万 3 千 ha（4%）減少した。10 ㍊当たりの収量は、全国平均で 532 kg が見込まれる。予想収穫量は前年差に比べ 43 万 t 減少の 904 万 7 千 t、作況指数は全国平均で 103 の「やや良」となっている。

地域別に見ると、北海道、東北については、太平洋側の地域で 7 月上旬から 8 月中旬までの低温・日照不足により登熟が緩慢となったため、それぞれ作況指数は 100「平年並み」、102「やや良」であった。その他の地域では、7 月以降の天候による障害は概ね少なかったことから、北陸、中国及び九州は 104「やや良」、関東・東山、東海及び近畿が 103「やや良」、四国が 102 の「やや良」であった。

II 病害虫発生の概要

1 水稻

春先は、寒気の吹き込みや、好天による気温上昇などの影響で気温の変動が激しく、また、晴天続きで降水量が少なくなるなど農作業の遅れが懸念されたが、さほど大きな問題とならず、生育は順調に推移した。

梅雨入後も全国的に好天が続いたことから、葉いもちの発生は全体的に少なく推移したが、6 月第 2 週に入り、日本付近に前線が停滞し、全国的に曇りや雨の日が多くなり、中旬には北日本を中心に寒気が入ったことから、北海道及び東北において、葉いもちの発生が見られ

るようになり、早期防除の徹底が呼びかけられた。7 月下旬から 8 月上旬にかけて「やませ」の影響による低温のため、北日本の一部地域では穂いもちの発生が見られた。

本年、いもち病に関する警報及び注意報は、7 月下旬から 8 月上旬にかけて低温の影響を受けた北日本を中心に、警報が 11 件、注意報が 12 県から延べ 14 件発表され、昨年と比べると多かったものの、近年と同様に、いもち病に関する警報・注意報の発令は全国的に少ない傾向にある。

害虫では、ウンカ類の初飛来は 5 月下旬に近畿四国及び九州地方で、6 月に入って中国地方で確認された。その後、梅雨前線の活動が活発化し始めた 6 月 5 日前後から 7 月初めにかけて、西日本中心に広い地域で飛来波があった。8 月の 10 日前後には北関東から南東北にかけての地域及び東海地方で比較的多い飛来が見られた。これら飛来のほとんどはセジロウンカであり、予防剤の普及もあり本田での発生は「平年並み」以下となり、ウンカに関する警報及び注意報の発表はなかった。(平成 12 年は「平年並み」以下の発生で関東甲信地方で注意報が 3 件発表された。)

一方、後期害虫では、平成 12 年に引き続き斑点米カメムシ類が全国的に発生が目立った。

斑点米カメムシ類は、平成 12 年、春先からの高温による著しい増殖により、発生面積統計が開始された昭和 56 年以降、過去最高値の 61 万 ha の発生を記録した。昨年は、平成 12 年を若干下回る、全国計で約 53 万 ha を記録し、7 県から警報 7 件、35 道府県から延べ 42 件の注意報が発表された。

多発生の要因は、気象による影響(高温)が最も大きい、加えて斑点米カメムシ類の生息地となる休耕田、米の生産調整により地力増進作物、飼料作物等の面積が増加し、かつカメムシ類の優占種も変化してきていること等も大きな要因となっている。

2 その他普通作

平成 12 年、東北の日本海側及び北陸を中心として問題となった海外飛来性の害虫アワヨトウが、昨年も、北海道及び東北の一部地域で平年値を越える発生があり、警報 1 件、注意報 3 件が発表された。アワヨトウの飛来に好適な条件については、平成 12 年北陸農政局が開催した発生要因の解析検討会の報告によれば、「太平洋高気圧が張り出し、高気圧の縁に沿って卓越した偏西風(南西風)が発生することにより飛来がみられる」といわれており、東・西日本を中心に高気圧におおわれた 6 月上旬に飛来したと考えられる。その後、7 月下旬から

の低温により、発生は低く抑えられた。

大豆では、吸実性カメムシ類が、東北及び関東で「やや多」となった。また、ハスモンヨトウも、夏期間高温傾向が続き、少雨となった西日本を中心に発生が警戒され注意報が 5 件発表された。

3 果樹等

病害については、りんご腐らん病が北日本を中心に発生が多く見られたものの、春先からの高温・小雨のため、全国的に発生は低く抑えられた。他の病害も全国的に発生は低かった。

害虫では、春先からの温暖傾向により果樹カメムシ類の発生時期が早く、4 月下旬から近畿地方以東の地域で発生が多く見られ、越冬成虫に対する注意報が 15 県で発令された。また、当年世代成虫に対しては、9 月以降九州地方を中心に 2 県から注意報が発表された。

4 野菜及び花き

大豆同様、夏期の高温、少雨によりハスモンヨトウの発生が西日本を中心に警戒されたが、注意報の発表回数は、一昨年を下回った。(一昨年 21 県から延べ 23 件発表された。)

III 病虫害防除事業

1 ウリミバエ

奄美群島：前年に引き続き奄美群島全域において侵入警戒調査を実施した。

沖縄県：前年に引き続き沖縄群島、宮古群島及び八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシ及びイモゾウムシ

平成 9 年 12 月に発生が確認された鹿児島県上屋久町及び屋久町におけるアリモドキゾウムシ及び屋久町におけるイモゾウムシについては、緊急防除の省令により寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において殺虫剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄

表-1 病害虫発生・防除状況(平成 13 年 10 月 1 日現在)

(単位: 千 ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(イネ)				
葉いもち	平年並以下, 北日本の一部やや多	533 (108)	1,526 (100)	昨年は過去 10 年間で最少発生面積
穂いもち	平年並以下, 北日本の一部やや多	313 (113)	1,842 (98)	
紋枯病	東・西日本の一部やや多	628 (94)	860 (89)	
白葉枯病	平年並以下, 九州の一部やや多	14 (93)	27 (79)	
ばか苗病	東北, 関東, 九州の一部やや多	19 (106)	1,082 (80)	
縞葉枯病	九州の一部やや多	18 (120)	—	
もみ枯細菌病	東海, 近畿, 中国四国及び九州の一部やや多	63 (147)	118 (45)	
稲こうじ病	平年並以下	83 (95)	53 (104)	
ニカメイガ	平年並, 東北, 関東及び中国の一部やや多	176 (105)	613 (94)	
セジロウンカ	平年並以下, 四国, 九州の一部やや多	731 (89)	1,259 (98)	
トビイロウンカ	平年並以下	56 (112)	779 (89)	
ヒメトビウンカ	東北, 関東, 東海及び西日本の一部やや多	660 (118)	1,103 (93)	
ツマグロヨコバイ	平年並, 一部の地域でやや多	676 (99)	958 (94)	
イネドロオイムシ	少ない	170 (71)	649 (93)	
斑点米カメムシ類	全国的にやや多	534 (85)	1,765 (87)	春先からの高温傾向等
アワヨトウ	平年並以下, 北日本の一部やや多	7 (58)	61 (42)	
コブノメイガ	関東以西の一部やや多	311 (105)	457 (89)	
イネミズゾウムシ	四国の一部やや多	737 (95)	784 (81)	
(ムギ類)				
さび病類	北日本及び九州の一部やや多	42 (102)	239 (147)	4 月下旬の降雨 根雪期間が長かった 種子消毒の不徹底
うどんこ病	中国及び九州の一部やや多	49 (83)	260 (128)	
赤かび病	平年並	61 (124)	317 (127)	
雪腐病類	東北の一部やや多	53 (118)	81 (94)	
斑葉病	九州の一部やや多	6 (120)	20 (118)	
(ジャガイモ)				
疫病	北日本の一部やや多	24 (120)	367 (104)	7 月下旬から 8 月上旬の低温
(ダイズ)				
紫斑病	平年並以下	18 (90)	80 (125)	昨年と同様に病害の発生は低い
アブラムシ類	東北, 九州の一部多, その他平年並	35 (103)	40 (57)	
ハスモンヨトウ	西日本の一部やや多	40 (103)	74 (96)	
ハダニ類	四国の一部やや多, その他平年並以下	10 (91)	14 (350)	
吸実性カメムシ類	東北, 関東, 近畿及び四国の一部やや多	25 (66)	83 (117)	
(カンキツ類)				
そうか病	西日本の一部やや多	12 (120)	85 (98)	
黒点病	関東, 四国及び九州の一部やや多	59 (97)	260 (103)	
かいよう病	九州の一部やや多	12 (92)	61 (94)	
ヤノネカイガラムシ	平年並, 関東, 近畿の一部やや多	5 (100)	71 (96)	
ミカンハダニ	関東, 東海, 四国及び九州の一部やや多	59 (87)	234 (95)	
カメムシ類		6 (150)	30 (115)	
(リンゴ)				
モニリア病	平年並以下	1 (33)	73 (101)	被害部の不十分
斑点落葉病	平年並	17 (100)	370 (98)	
黒星病	〃	3 (150)	270 (94)	
腐らん病	北日本でやや多	8 (100)	66 (81)	
ハマキムシ類		4 (100)	205 (126)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
ハダニ類	東北、関東及び中国の一部やや多	15 (107)	142 (103)	
(ナシ)				
黒斑病	東北の一部多	2 (100)	56 (92)	越冬菌密度が高かった
黒星病	東北、関東及び九州の一部やや多	3 (75)	138 (105)	
ナシヒメシンクイ	//	1 (100)	53 (108)	
ハダニ類	一部地域でやや多～多	7 (100)	50 (111)	
カメムシ類		4 (200)	31 (115)	
アブラムシ類	平年並	8 (100)	51 (106)	
(モモ)				
せん孔細菌病	平年並以下	3 (75)	41 (108)	
灰星病	//	1 (100)	44 (116)	
(ブドウ)				
晩腐病	甲信、中国及び九州の一部やや多～多	2 (100)	55 (96)	
べと病	関東、東海及び九州の一部やや多～多	6 (120)	68 (96)	
灰色かび病	平年並以下	1 (100)	33 (97)	
(カキ)				
うどんこ病	近畿及び中国の一部やや多	7 (100)	50 (100)	
落葉病類	関東、甲信、四国及び九州の一部やや多	5 (125)	50 (98)	
カメムシ類		6 (86)	39 (95)	
カキクダアザミウマ	平年並以下	2 (100)	22 (110)	
(チャ)				
炭そ病	平年並以下、中国、九州の一部やや多～多	30 (91)	82 (78)	
チャノコカクモンハ	関東及び九州の一部やや多	12 (120)	62 (100)	
マキ				
カンザワハダニ	平年並以下、近畿及び九州の一部やや多	21 (70)	88 (102)	
(キュウリ)				
べと病	四国及び九州の一部やや多	6 (86)	53 (100)	
うどんこ病	東北及び関東の一部やや多～多	6 (100)	45 (100)	
(スイカ)				
つる枯病	九州の一部やや多	3 (75)	30 (77)	
(ハクサイ)				
軟腐病	平年並以下	2 (40)	21 (72)	
白斑病	//	1 (50)	14 (74)	
(キャベツ)				
黒腐病	平年並以下	1 (17)	19 (63)	
コナガ	平年並以下	8 (53)	56 (71)	
(タマネギ)				
べと病	近畿及び九州の一部やや多～多	2 (100)	12 (71)	2～4 月の高温で発生が助長
(野菜共通)				
疫病 ⁽¹⁾	平年並以下	2 (67)	37 (80)	
灰色かび病 ⁽²⁾	//	5 (83)	58 (83)	
アブラムシ類 ⁽³⁾	平年並	40 (87)	262 (112)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
ハダニ類 ⁽⁴⁾	〃	15 (94)	75 (100)	夏季の高温で発生が助長
ハスモンヨトウ ⁽⁵⁾	関東及び西日本の一部やや多 平年並	9 (90)	42 (114)	
ヨトウガ ⁽⁶⁾		8 (80)	56 (80)	
(キク)				
白さび病	平年並	1 (100)	12 (86)	
アザミウマ類	夏秋にやや多	2 (100)	11 (110)	
アブラムシ類	〃	2 (100)	9 (100)	

(1): トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ

(2): トマト, レタス, イチゴ

(3): トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ

(4): ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ

(5): ナス, レタス, サトイモ, イチゴ

(6): ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ

表-2 平成 13 年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注: 数字は発表年月日, アンダーラインは警報)

(10月1日現在)

① イネ	葉いもち	穂いもち	コブノメイガ	斑点米カメムシ類	アワヨトウ	そ の 他 の 病 害 虫
北海道	7/19			7/26	6/11	
東 青 森		7/27		7/19	6/20	紋枯病: 7/11
北 岩 手		7/25, 8/9		7/2, 7/27, 8/9		
宮 城				7/6, 7/24, <u>8/2</u>		
秋 田	7/13	<u>7/26</u>		7/16	6/11	
山 県	7/19			7/5, <u>7/19</u>		
福 島				7/13		
関 茨 城				7/12		
東 栃 木				7/19		
群 馬				7/30		
埼 玉				8/16		
千 葉				7/11		
東 京						
神 奈 川						
山 梨	7/11, 7/26			7/18		
長 野						
静 岡						
北 新 潟				7/2, 7/18		
富 山				7/6, <u>7/24</u>		
石 川				7/10, <u>7/24</u>		
陸 福 井	6/26	7/19		7/6, <u>7/26</u>		
東 岐 阜	7/13	7/13		6/28, <u>7/30</u>		
海 愛 知				7/12		
三 重				7/19		
近 滋 賀				7/12, 8/1		
畿 京 都				7/19		
大 阪				8/10		
兵 庫				7/12, 8/2		
奈 良				7/23		
和 歌 山						

中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知			8/9	7/18 7/5, <u>7/24</u> 7/12 7/26 7/17 7/18 7/16 7/17, 8/29 8/30		
九 州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	7/26	7/26 8/10 7/27		8/17		
沖 縄							
②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ		アワヨトウ		その他	
北 海 道				<u>7/3</u> (トウモロコシ)		赤かび病: 6/1 (小麦)	
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島					ジャガイモヒゲナガアブラムシ: 8/31 (ダイズ)	
関 東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡					アブラムシ類: 8/20 (ダイズ)	
北 陸	新潟 富山 石川 福井					紫斑病: 8/10 (ダイズ)	
東 海	岐阜 愛知 三重					アルファルファタコゾウムシ: <u>5/14</u> (レンゲ)	
近 畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/3 (ダイズ)				ヨトウ類: 9/26 (ダイズ)	
	鳥取 島根						

中国四国	岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	8/15 (ダイズ) 9/18 (ダイズ, 飼料作物)		
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/21 (ダイズ)		イグサシンムシガ: 4/6 (い)
沖縄				黒穂病: 5/1 (サトウキビ)
③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類		その他
北海道				
東北	青森	8/2 (ナシ, モモ)	リンゴハダニ: 3/23 (リンゴ) 斑点落葉病: 8/2 (リンゴ) 斑点落葉病: 7/5 (リンゴ)	
	岩手	7/10 (リンゴ)		
	宮城			
	秋田	5/25 (果樹共通), 7/13 (モモ, リンゴ)		
	山形	7/25 (カキ, ナシ, モモ, リンゴ)		
	福島	6/4 (果樹共通)		
関東	茨城	5/24 (果樹共通)	黒星病: 5/1 (ナシ) オオタバコガ: 7/31 (トマト, ナス)	
	栃木	5/31 (果樹共通)		
	群馬	6/11 (ナシ)		
	埼玉	5/21 (果樹共通)		
	千葉	4/26 (ナシ, リンゴ)		
	東京	5/24 (果樹共通)		
東海	山梨			
	長野			
北陸	静岡			
	新潟	7/2 (カキ, ナシ, モモ, リンゴ, ブドウ) 5/29 (果樹共通)	モモハモグリガ: 5/30 (モモ)	
近畿	富山			
	石川			
中国	福井			
	岐阜	8/8 (ナシ, モモ, リンゴ)	カイガラムシ類: 5/25 (果樹共通) チャノキイロアザミウマ: 6/5 (かんきつ類, カキ, ブドウ) チャノキイロアザミウマ: 8/3 (かんきつ類) クワシロカイガラムシ: 5/11, 7/19 (茶)	
四国	愛知			
	三重			
九州	滋賀			
	京都			
中国	大阪			
	兵庫			
四国	奈良			
	和歌山			

中 国 四 国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知		フジコナカイガラムシ：6/14 (カキ)
	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/21 (かんきつ類, カキ) 9/26 (かんきつ類, カキ)	ミカンハダニ：6/4, 8/15 (かんきつ類) 炭そ病：6/15 (茶)
沖 縄			
④ 野菜		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			
東 北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		TSWV：6/18 (ナス科植物, キク科植物)
	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨		べと病：5/2 (タマネギ) オオタバコガ：8/17 (野菜共通)
東 北	山梨 長野 静岡		オオタバコガ：8/27 (野菜共通) タバコガ：8/27 (野菜共通) オオタバコガ：7/31 (キク)
	新潟 富山 石川 福井		オオタバコガ：9/5 (野菜共通) オオタバコガ：9/7 (野菜共通) タバコガ：9/7 (野菜共通) オオタバコガ：7/4 (野菜共通) つる枯病：6/22 (スイカ), 炭そ病：6/22 (スイカ)
東 海	岐阜 愛知 三重		トマト黄化葉巻病：9/4 (トマト) べと病：4/18 (タマネギ), ハイマダラメイガ：9/3 (アブラナ科植物) トマト黄化葉巻病：9/3 (トマト) トマト黄化葉巻病：9/18 (トマト)
	滋賀 京都 大阪		ハモグリバエ類：8/31 (キュウリ, トマト, ナス) 白色疫病：3/7 (タマネギ), べと病：4/24 (タマネギ) ミカンキイロアザミウマ：6/19 (ナス), ヨトウ類：9/26 (野菜共通)

近畿	兵庫 奈良 和歌山	9/3	ハイマグラメイガ：8/31（アブラナ科植物） オオタバコガ：7/12（トマト，ナス）
中国 四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/18	ネギアザミウマ：6/21（ネギ），ネギハモグリバエ：8/21（ネギ）
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	8/21	ポトリナス葉枯病：2/26（タマネギ） べと病：3/30（ネギ）
沖縄			
⑤ 花き類		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		TSWV：6/18（ナス科植物，キク科植物）
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		オオタバコガ：8/17（花き全般）
北陸	新潟 富山 石川 福井		オオタバコガ：9/5（花き全般） オオタバコガ：9/7（花き全般），タバコガ：9/7（花き全般） オオタバコガ：7/4（花き全般）
東海	岐阜 愛知 三重		
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/3	ミカンキイロアザミウマ：6/19（花き全般），ヨトウ類：9/26（花き全般） オオタバコガ：7/12（キク）

中 国 四 国	鳥 取 島 根 岡 山 広 島 山 口 徳 島 香 川 愛 媛 高 知		
	福 岡 佐 賀 長 崎 熊 本 大 分 宮 崎 鹿 児 島	8/21	
沖 縄			

県においてイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシを対象にして、不妊虫放飼等による実験的な根絶防除を実施した。

IV 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施延べ面積は、3,426 千 ha となった。

本事業の基幹である水稲部門は、実施延べ面積は 708 千 ha、実面積は 365 千 ha で水稲栽培面積の 21%に当たり、関係農家戸数は約 438 千戸、水稲栽培農家の 25%を占め、平均 1.9 回の散布が実施された。剤形別、散布方法別では、本年度は液剤の通常散布 47%，同じく微量散布 31%の割合となった。

畑作・果樹部門は、麦、大豆、粟、りんご等の病害虫防除等が 9 千 ha であった。畜産部門は、牧野の施肥等が 3 千 ha であった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止防除等が行われ、2,705 千 ha であった。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、389 千 ha。うち、水稲 342 千 ha、麦、大豆等 47 千 ha であった。

V 農薬の出荷状況

平成 13 農薬年度（平成 12 年 10 月～平成 13 年 9 月）

表 - 3 平成 13 農薬年度農薬出荷状況（推定）

(単位：t, kl 百万円, %)				
用 途		平成 12 農薬年度 出荷実績	平成 13 農薬年度（推計）	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数 量	129,449	124,000	96
	金 額	134,168	130,000	97
殺菌剤	数 量	80,090	72,000	90
	金 額	90,681	89,000	98
殺虫殺菌剤	数 量	38,585	35,000	91
	金 額	32,812	32,000	98
除草剤	数 量	72,016	70,000	98
	金 額	114,425	114,000	99
その他	数 量	22,218	22,000	98
	金 額	12,602	13,000	103
合 計	数 量	342,358	323,000	95
	金 額	348,687	378,000	98

資料：生産資材課調べ

における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では 5%減の 323 千 t, kl，金額では 2%減の 3,780 億円程度と推定される。